

＜本郷キャンパス＞
学校法人文京学園
文京学院大学経営学部・外国語学部・保健医療技術学部／大学院／文京学院大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771

＜ふじみ野キャンパス＞
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部・大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

＜駒込キャンパス＞
文京学院大学女子高等学校／文京学院大学女子中学校
〒113-8667 文京区本駒込 6-18-3
☎03-3946-5301



平成 26 年(2014 年)
6 月 30 日
第 698 号
発行
学校法人文京学園
http://bgu.ac.jp

文京学院は、平成26年10月23日に創立90周年を迎えます。

大学 第2回「新・文明の旅」プログラム「特講a」

学生100名が リトアニア共和国を学ぶ

—— ラトビア共和国・ポーランド共和国も学ぶ ——

6月17日、本郷・ふじみ野両キャンパスにおいて、第2回「新・文明の旅」プログラム「特講a」（担当＝同実行委員会）の双方向テレビ授業が行われ、両キャンパスで約100名の学生が受講しました。これは、同プログラムで学ぶ学生たちが、ポーランド、リトアニア、ラトビアに位置する地域全体を学び、さらに、それぞれの歴史・文化、経済や日本との関係を中心により深く学ぶという特別講義です。



メイルーナス閣下(左)と大野教授

当日は、リトアニア共和国大使館より特命全権大使のエグディウス・メイルーナス閣下が本郷キャンパスに、ふじみ野キャンパスにはヴィオレタ・ガイザウスカイト全権公使が来校。閣下は「リトアニア共和国と日本の長期にわたるパートナーシップ」（通訳＝大野和巳経営学部教授、リーア・ギルナー外国語学部准教授）について、全権公使は「リトアニア共和国における杉原千畝の重要性」（通訳＝絹川直良経営学部教授）について講義しました。

同国の公用語はリトアニア語、面積は65,300km²（北海道の80%）、人口は300万人（北海道の60%）、首都はヴィリニウスです。これらの基本情報を皮切りに、閣下は同国の歴史、ヨーロッパにおける同国の地位、同国と日本の関係、同国と日本間の経済的関係、同国における日本などについて熱弁されました。約1000年の歴史の中で、ロシア、ソ連、ナチス・ドイツに占領され、その度に自由と独立を勝ち取ってきた同国。そのドラマティックな歴史を経て、2004年にNATOとEUに加盟、2013年にはEU議長国を務めました。最後に閣下は、同国の伝統や観光などに触れ、同国をぜひ訪れてほしいとしました。

一方、全権公使は、同国のカウナス領事代理であった杉原千畝が、1940年にナチス・ドイツの迫害によりポーランド等欧州各地から逃れてきた約6,000人の難民に大量ビザを発給し、窮地を救った偉業を皮切りに講義をスタート。ホロコーストにより、同国のユダヤ人の90%の命が奪われた過去をたどり、それらを忘れないために同国が取り組んでいる施策などについて話しました。

最後に全権公使が「他の人のために働ける人材になってください。皆さんの夢が叶いますように！」と学生に向けて発した言葉には、深い思いが込められていました。

外部講師を招いての講義としては、5月には、ユダヤ人の迫害を中心にホロコースト問題について白石仁章氏（外務省外交史料館）、3カ国全体の歴史、言語について堀口大樹氏（日本学術振興会特別研究員）、およびEUの歴史について佐久間浩司氏（国際通貨研究所）がありました。6月の「特講a」は、上記の他に2回の講義が行われています。6月3日は、本郷キャンパスにラトビア共和国大使館特命全権大使のノルマン・ベンケ閣下とタナ・ルダールカ二等書記官、ふじみ野キャンパスに堀口大樹氏。内容は、ラトビア共和国を中心に、1992年の独立が可能になった背景、その後の発展の歩み、および「ラトビアの歌と踊りの祭典」（現在、S館1階にて写真展示。ふじみ野キャンパスでも展示予定）について。24日は、ポーランド共和国大使館のヤムローズ一等書記官と、メルクレイン・イヴォナ氏（東京大学大学院情報学環・国際研究員）。内容は、ポーランドの経済、およびポーランドから見た日本（日本語や日本文化への興味）でした。

この科目を履修している矢萩陸さん（外国語学部2年）は、「迫害や侵略など、自分たちが体験したことのないナマの講義に身が引き締まりました。これからの各国との交流を通じて、等身大の日本を発信し、先方に理解していただければと思います」と抱負を語りました。



200人を超える参加者の熱気に包まれて

その後、新設の看護学科実習室、GCIコーナーなどS館の見学会、個別相談

講義を終了後、入試広報センターの國分豊マネジャーが「平成27年度入試概要・入試変更点など」について解説。

鴻上氏のユーモア溢れる講演会



講演を行いました。コンスタンチン・スタニスラフスキー（ロシアの俳優・演出家の唱える第1の輪＝私、第2の輪＝あなたと私、第3の輪＝みんな）を軸に、それが独り言、あなたと話す言葉、みんなと話す言葉になる例や、声の要素（大きさ、高さ、速さ、間、声色／声質）などについてのユーモア溢れる内容は、教員が教壇に立つ際の大きなヒントとなりました。講演終了後、入試広報センターの國分豊マネジャーが「平成27年度入試概要・入試変更点など」について解説。

Desislavaさんは、同国カルロポ市主催の「バラの女王コンテスト」で優勝した16歳の高校生です。この日は、授業後に「バラの女王」の姿を披露しました。突然のお姫様の登場に、生徒たちは感動！その姿に「同、見とれました。在校生ご家族が、ホストファミリーとして、Desislavaさんを歓迎。2泊3日のホームステイ中、六義園散策、東京デイズニールランドなど、心尽くしのおもてなしをしました。今回の受け入れを担当した。



「バラの女王」の衣装でお姫様のようなDesislavaさん

大学で実施されている「新・文明の旅」プログラムにより、駐日ブルガリア共和国大使館と縁が深まったことで、高校もブルガリア共和国との交流が生まれています。6月14日、同国Desislava Bogdanovaさんが駒込キャンパスに来校。来日が初めてというDesislavaさんは、全く日本語がわかりませんが、フレンドリーな本校生徒に歓迎され、英語クラスの2年校組で英語と地理の授業体験をしました。

高校 ブルガリアの生徒と交流 「バラの女王」本校へ！

さて、日本の大学は今、改革の渦中にあります。かつて学部では一定の理念とストーリー性を持ったカリキュラムのもとではありましたが、教員は学生のためになると思った内容で授業をし、学生は様々な授業から自分に必要な能力や知識を取り入れ、自分なりの体系を築き上げていく（少し言い過ぎ？）といったおおらかな教育が行われていました。

今、この様な学部教育に対し、卒業生が持つべき資質・能力・知識を具体的な簡条書きで表現し（ディプロマポリシー）、それを実現するカリキュラムをより厳密な因果性に基づき体系的に、各科目の内容と到達目標も教員の自由に任せず学部で決定して、確実にディプロマポリシーを保証する仕組みである学士課程教育（と呼んでいる）が求められています。

今年度より教学担当の副学長を拝命し、正に驚愕しております。ただ、思い起こせば学部長時代に「教育と研究に専念できれば」とよく思っていたもので、研究科委員長と総合研究所長を兼任し、それに教学担当となればその思いが実現したとも言えるのかもしれません。その意味では、皆様のご協力を仰ぎながら微力を尽くしたいと考えています。

さて、日本の大学は今、改革の渦中にあります。かつて学部では一定の理念とストーリー性を持ったカリキュラムのもとではありましたが、教員は学生のためになると思った内容で授業をし、学生は様々な授業から自分に必要な能力や知識を取り入れ、自分なりの体系を築き上げていく（少し言い過ぎ？）といったおおらかな教育が行われていました。

今年度より教学担当の副学長を拝命し、正に驚愕しております。ただ、思い起こせば学部長時代に「教育と研究に専念できれば」とよく思っていたもので、研究科委員長と総合研究所長を兼任し、それに教学担当となればその思いが実現したとも言えるのかもしれません。その意味では、皆様のご協力を仰ぎながら微力を尽くしたいと考えています。

さて、日本の大学は今、改革の渦中にあります。かつて学部では一定の理念とストーリー性を持ったカリキュラムのもとではありましたが、教員は学生のためになると思った内容で授業をし、学生は様々な授業から自分に必要な能力や知識を取り入れ、自分なりの体系を築き上げていく（少し言い過ぎ？）といったおおらかな教育が行われていました。

今年度より教学担当の副学長を拝命し、正に驚愕しております。ただ、思い起こせば学部長時代に「教育と研究に専念できれば」とよく思っていたもので、研究科委員長と総合研究所長を兼任し、それに教学担当となればその思いが実現したとも言えるのかもしれません。その意味では、皆様のご協力を仰ぎながら微力を尽くしたいと考えています。

今年度より教学担当の副学長を拝命し、正に驚愕しております。ただ、思い起こせば学部長時代に「教育と研究に専念できれば」とよく思っていたもので、研究科委員長と総合研究所長を兼任し、それに教学担当となればその思いが実現したとも言えるのかもしれません。その意味では、皆様のご協力を仰ぎながら微力を尽くしたいと考えています。

今年度より教学担当の副学長を拝命し、正に驚愕しております。ただ、思い起こせば学部長時代に「教育と研究に専念できれば」とよく思っていたもので、研究科委員長と総合研究所長を兼任し、それに教学担当となればその思いが実現したとも言えるのかもしれません。その意味では、皆様のご協力を仰ぎながら微力を尽くしたいと考えています。

今年度より教学担当の副学長を拝命し、正に驚愕しております。ただ、思い起こせば学部長時代に「教育と研究に専念できれば」とよく思っていたもので、研究科委員長と総合研究所長を兼任し、それに教学担当となればその思いが実現したとも言えるのかもしれません。その意味では、皆様のご協力を仰ぎながら微力を尽くしたいと考えています。

今年度より教学担当の副学長を拝命し、正に驚愕しております。ただ、思い起こせば学部長時代に「教育と研究に専念できれば」とよく思っていたもので、研究科委員長と総合研究所長を兼任し、それに教学担当となればその思いが実現したとも言えるのかもしれません。その意味では、皆様のご協力を仰ぎながら微力を尽くしたいと考えています。

今年度より教学担当の副学長を拝命し、正に驚愕しております。ただ、思い起こせば学部長時代に「教育と研究に専念できれば」とよく思っていたもので、研究科委員長と総合研究所長を兼任し、それに教学担当となればその思いが実現したとも言えるのかもしれません。その意味では、皆様のご協力を仰ぎながら微力を尽くしたいと考えています。

副学長 外国語学部教授
外国語学研究所委員長
櫻山義夫

達目標も教員の自由に任せず学部で決定して、確実にディプロマポリシーを保証する仕組みである学士課程教育（と呼んでいる）が求められています。

Green Spirits

大学改革と認証評価

1回目の認証評価では学士課程教育の質を保証する制度の導入が評価の対象となり、今回は質保証制度が実際に機能しているかどうかを対象とした。今回は具体的な成果が問われることになると思われ。

ただ、学士課程教育構築を確実に進め、成果を上げることが求められる中、確実性の陰で創造性をどう担保するかが、我々教員の悩める課題となりそうです。

今年度より教学担当の副学長を拝命し、正に驚愕しております。ただ、思い起こせば学部長時代に「教育と研究に専念できれば」とよく思っていたもので、研究科委員長と総合研究所長を兼任し、それに教学担当となればその思いが実現したとも言えるのかもしれません。その意味では、皆様のご協力を仰ぎながら微力を尽くしたいと考えています。

今年度より教学担当の副学長を拝命し、正に驚愕しております。ただ、思い起こせば学部長時代に「教育と研究に専念できれば」とよく思っていたもので、研究科委員長と総合研究所長を兼任し、それに教学担当となればその思いが実現したとも言えるのかもしれません。その意味では、皆様のご協力を仰ぎながら微力を尽くしたいと考えています。

今年度より教学担当の副学長を拝命し、正に驚愕しております。ただ、思い起こせば学部長時代に「教育と研究に専念できれば」とよく思っていたもので、研究科委員長と総合研究所長を兼任し、それに教学担当となればその思いが実現したとも言えるのかもしれません。その意味では、皆様のご協力を仰ぎながら微力を尽くしたいと考えています。

高校 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)便り⑭

卵の奥深さ食育科学で

文部科学省から都内女子校初のSSHの認定を受けた本校では、日々、校内外の専門家による指導が展開されています。今回は卵を使った実験をしました。

「卵の科学」加熱調理を中心に「をテーマに、高1梅組(理数クラス)を対象とした実験が6月14日、駒込キャンパスで行われました。講師は女子栄養大学調理科学研究室の柴田圭子准教授。

まずは、「ゆで卵」の実験。「ゆで卵は加熱温度と時間によって、卵黄・卵白の凝固状態が異なることを知る」ことを目的に、半熟卵や完熟卵を作るための時間計測をしました。室温卵をそれぞれ3分、5分、10分、20分、冷温卵を10分に分けて加熱し、水道水で5分冷却しました。

続いて、「温泉卵」の実験。「卵は加熱温度と時間によって、凝固状態の異なるものが出来ることを知る」ことを目的に、温泉卵の作り方、温泉卵と平熱卵の違いなどを学びました。

2つの実験の結果、卵白は58度〜60度でゲル化が始まり、70度で半流動のゲルとなり、80度で流動性を失い凝固することが判明。さらに、15分以上加熱すると、具合も味も変わるという事実も明らかになりました。



加熱時間でこのような差が！



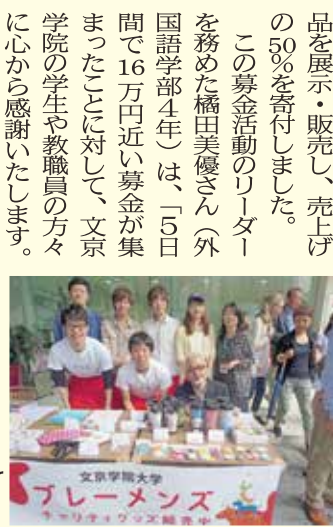
柴田准教授(左から3人目)の説明に集中

大学 トルコ・ソマ炭鉱爆発事故被災者のために

学生有志が募金活動

2014年5月13日に、トルコ共和国のソマで発生した炭鉱爆発事故は、301名もの犠牲者を出す大惨事となりました。本学は、「新・文明の旅」プログラムを通じて、同国と深い交流があります。

そこで立ち上がったのは、本学の学生有志約30名。6月14日のオープンキャンパスを皮切りに16日、20日までの6日間、昼休みを利用してB'sダイニングで募金を開始しました。名付けて「チャイカフェ募金」。募金者には、同国の紅茶(チャイ)とお菓子を提供し、感謝の気持ちを表しました。多くの学生・教職員による善意は15万7900円に達しました。



全権大使(右から2人目)に寄付を手渡す橋田さん(左から2人目)



グレーメンズも心を込めて大活躍！

大学 保育実践研究センター

公開研究会で保育の専門家たちが学ぶ

保育実践研究センター主催「第10回公開研究会」が6月21日、保育現場で活躍中の教職員・在学生を対象に、ふじみ野キャンパスで開かれました。

森下葉子同センター教員研究員(人間学部助教)の司会により、加須屋裕子センター長(人間学部教授)の挨拶で開会。続いて、幼稚園教諭として佐藤諒子さん、保育士(前職)として廣沢仁美さん(現在、幼稚園教諭、重症心身障害児者の入所施設職員として森田優馬さんが順次登壇(3名とも本学卒業生)。「子どもたちの最善の利益と保護者対応」をテーマに、事例を挙げながら、現場での体験を具体的に発表しました。それらの発表を受けて、参加者約80名が12グループに分かれ、討論を実施。それぞれ、現場で抱える問題や戸惑い、不安などを明らかにする中で、より良い保育や保護者との関わりを模索することが大事だと改めて思いました」と成果を喜びました。



佐藤さん



廣沢さん



保育の専門家が本音で語り合い

森田さん

大学 『東海五十三次・五街道ウォーク』OB/OG会開催

「東海五十三次ウォーク」「五街道ウォーク」に携わった卒業生たちが、親睦を深めて後輩にエールを送るため、6月29日、本郷キャンパスB'sカフェでOB/OG会を開きました。2004年〜2014年までの学生実行委員長・委員・教職員60人が参集しました。

島田燐子理事長、小栗俊之統括顧問(人間学部教授・ふじみ野幼稚園長)、發起人・杉本恵理さん(2004年実行委員長)の挨拶に続き、同じく發起人の柳原有香さん(同副実行委員長)が各教員と歴代実行委員長を紹介。

2014年「五街道ウォーク」の山田諒佳実行委員長(経営学部3年)は、「東海五十三次ウォーク」から「五街道ウォーク」への交換と「100周年プロジェクト」について説明。2014年は中山道の下諏訪



いざ、100周年に向けて歩き続けよう！

